

コロナ流行、背中押す

親族内承継

空調や水回りの設備工事を専門とする三栄工業（那覇市、従業員85人）は4月、2代目社長の中村達さん（75）から娘・福田郁絵さん（49）に引き継がれた。福田さんが引き継ぐ意志を表明してから10年超。ゆっくりだった事業承継は新型コロナウイルス感染症の世界的流行で急展開した。その陰には、新旧社長の親子としての約束があった。「会社は弟が継ぐと思っていた」。福田さんは

三栄工業 福田 郁絵社長

長年、東京のシステム開発会社にエンジニアとして務め、夫と2人で暮らしていた。しかし家族を渡し、弟に継ぐ意志がないと知り「私が継ぐ」と申し出た。

娘の意志を歓迎した中村さんだったが、条件を出した。「夫婦一緒に沖縄に来ること」。福田さんは、やはりエンジニアとして活躍する夫を残し、単身での帰郷を考えていた。一方、中村さんには若いころの苦い思い出があった。中村さんは佐世保市出身だが、父親は復

帰前の沖縄で創業し、母子だけの生活が続いた。「家族別々の生活に良い思い出はない」。同じ思いをさせたくなかった。

「夫婦一緒」の約束の下で具体的な動きはなく、2017年に中村さんが体調を崩す。これを受け、取引があった琉球銀行に依頼し事業承継計画を策定した。中村さんに万が一の事態が起きたら議決権は福田さんが行使できるように自社株式の民事信託契約を結び、並行して納税猶予制度を活用するための届出をするなど、専門的な助言の下、準備は進められた。2人は事業承継について「専門家への相談は大切」と声をそろえる。

福田さんは18年、同社東京営業所に入社する。本社勤務を希望したが「夫婦一緒」の約束が阻んだ。ただ「本社に比べ小人数のため総合的に仕事をすることができた」と結果的にはメリットが大きかった。書類や図面の制作、ヘルメットをかぶり現場に出ることもあった。3年過ぎたころ、予期せぬ事態が起きた。夫

が完全リモートワークに移行。21年、夫婦一緒に帰郷を実現した。社長に就任し4カ月。

福田さんは得意分野を生かし、同社の課題だったデジタル化に着手している。長期目標について「社員が、入って良かったと思いつつ働き続けられる会社にできれば」と、肩肘を張らずに語る。中村さんは「経営にはいろいろ起こるが、好きなように進めてほしい」と目を細めた。



今年4月に三栄工業の3代目社長に就任した福田郁絵さんと前社長の中村達さん＝那覇市港町の同社